

折口信夫・池田弥三郎の 見た佐渡

折口信夫

池田弥三郎

日時

令和7年**11月2日** **日**
13:00~16:00(12:30開場)

会場

佐渡島開発総合センター
3階 大会議室
佐渡市両津夷198(両津支所隣)

定員

100名
(申込不要、先着順)

参加費
無料

リモート会場でのZoom配信有り

- 羽茂農村環境改善センター 佐渡市羽茂本郷617
- あいかわ開発総合センター 佐渡市相川栄町1

※ シンポジウム ※

- 講演 **佐藤 陽**氏 (慶應義塾高等学校教諭)
講演 **中本 真人**氏 (新潟大学人文学部准教授)
講演 **三村 純也**氏 (元大阪芸術大学教授、俳人)

- 折口信夫の学問における離島の位置
折口信夫・池田弥三郎の佐渡の旅
池田弥三郎の学問とその人柄

お問い合わせ先

佐渡市教育委員会
社会教育課 社会教育係

TEL 0259-58-7356

主催：新潟大学人文学部

共催：佐渡市教育委員会

開催趣旨

日本文学・民俗学の分野に大きな足跡を残した折口信夫と池田弥三郎。

折口信夫は、古代研究、民俗学、芸能史などの幅広い研究で知られるとともに、釈迺空の筆名で歌人・詩人としても活躍しました。その研究では、沖縄をはじめとする離島に注目したことでも知られます。1946年9月、折口は佐渡を訪れて『万葉集』の講義を行うとともに、多くの短歌を残しました。



折口の愛弟子であった池田弥三郎は、師の学問を継承しつつ、その発展に尽力しました。その仕事は、多くの著作だけではなく、メディアの出演にも及んでいます。池田は、折口に先立つ1939年8月に佐渡を訪れて、内海府から外海府の海岸沿いを巡りました。

このシンポジウムでは、折口信夫と池田弥三郎の学問に関する理解を深めるとともに、両者の研究と佐渡との関係を再検討します。また学問的な視座だけではなく、折口信夫と池田弥三郎の残したものを通して、佐渡が持つ文化的価値を再発見し、現代社会における地域文化の重要性についても議論したいと考えています。今回のシンポジウムを通して、佐渡の歴史と文化に対する新たな視点を得るとともに、折口と池田の知的遺産を次世代に伝える契機とできれば幸いです。



講師紹介

佐藤 陽氏 慶應義塾高等学校教諭

1983年 東京都生まれ

主な著作に『古代的心性研究序説』（武蔵野書院、2024年）、「重層する来訪神表象『常陸国風土記』筑波郡条の考察」（『古代文学』64号）、鉄野昌弘監修・著『マンガと図解で身につく よくわかる古事記』（ユーキャン学び出版、2025年）など。

中本 真人氏 新潟大学人文学部准教授

1981年 奈良県生まれ

主な著作に『なぜ神楽は応仁の乱を乗り越えられたのか』（新典社、2021年）、『内侍所御神楽と歌謡』（武蔵野書院、2020年）、『新潟医科大学の俳人教授たち』（新潟日報メディアネット、2024年）、『中田みづほの百句』（ふらんす堂、2025年）など。

三村 純也氏 元大阪芸術大学教授、俳人

1953年 大阪府生まれ

俳句雑誌「山茶花」主宰。主な句集に『常行』（第26回俳人協会新人賞）、『一（はじめ）』（第34回詩歌文学館賞）、『高天』（第59回蛇笏賞、第3回稲畑汀子賞）など。共著に『折口信夫事典』（大修館書店、1988年）など。